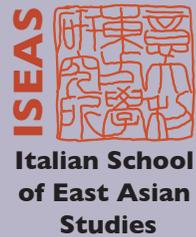


フランス国立極東学院／京都大学人文科学研究所／イタリア東方学研究所

北白川EFEOサロン 2018-2019
日本における宗教と民衆への教え（16～19世紀）



歌川 国芳 《高祖御一代略図》 [建治三年九月身延山七面神示現]
都立中央図書館特別文庫室所蔵

2019年 6月 28日（金） 18:00～

近世日本に発信された禅

禅宗仮名法語の思想についての一考察

講師：ディディエ・ダヴァン（国文学研究資料館・准教授）

日本人が持っている禅のイメージの作成過程には江戸時代に大量に出版された禅宗の仮名法語が大きな役割を果たしたと言える。辞書を引くと仮名法語が仏法を平易に説くテキストとされているが、仏教の基本教理を分かりやすく述べる部分があるものの、実際は随分複雑で難解な内容のものもある。しかも、それぞれの内容をよく見れば禅宗内の流派によって違って来る教えも反映されている場合がある。言い換えれば、仮名法語を見れば様々な時代に禅宗側の高僧や無名著者が何を発信しようとしたかが見えてくる。また、仮名法語そのものを一つの現象として考えると、近世の日本人と禅宗の複雑な関係性をとらえることができる。禅宗の思想史に無視されがちなテキストを入り口として、現在世界的にも有名になった「禅」を江戸時代の日本人がどう紹介してきたかを考えたい。

場所：京都大学人文科学研究所 セミナー室1



使用言語：日本語

研究者・学生対象

要事前申込

efeo.kyoto@gmail.com

または

075-701-0882 まで